

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 14 号

昭和62年 9月30日発行

編集者 大野良樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒151 東京都渋谷区
大山町17-17-503
☎ 03(465)6569

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

三水会の講演を終えて（児玉正昭教授）

LME同窓会について（5F・高橋明義）

職場紹介「銀ザケ養殖」（7F・本間正弘）

第14回水産学部体育祭

関西地区懇親会を開催して（2A・田代茂年）

Let's go すだて（9A・中村 栄）

昭和62年度三水会総会開催

* 通信販売（生ワカメ）のお知らせ

* 北陸地区親睦会のご案内



62年 8月 関東地区親睦会（千葉県）



62年 5月 第14回水産学部体育祭



62年 5月 第14回水産学部体育祭



62年 2月 関西地区親睦会（大阪府）

三水会の講演会を終えて

水産生物化学講座教授 児玉正昭

ある程度の年齢を過ぎると、誰しも年を取ることが嬉しくなくなるだろう。何年も会わなかった人に会うと、懐かしい気持ちと募ると共に相手の容貌の変化に流れて行った年月の大きさを思い出し、自分も同じだけ年をとったことを思い知らされることとなる。同窓会というのは厄介なもので、会報が届くと懐かしさで胸がときめくと同時に前に書いたような気持ちが交差し、複雑な気持ちになる。

三水会からの、総会に出て何か話をするようにとの依頼もこんな気持ちで引き受けた。まだ昔話に時を忘れるほど老いてはいない。講演の内容は我が研究室の近況に決め出かけた。講演が始まる。時間がどんどん逆回りしてゆく。あくびをしながら聞いている卒業生の顔からしわが一本一本消えてゆく。無駄な抵抗は止めよう。話をしながら赴任したときのことを思い出した。

松浦先生が教えて下さった大学までの道順は、盛で当時綾里が終点であった盛線（現在の三陸鉄道）に乗り換え、綾里から大学まではバスでゆけというものであった。盛線の待ち時間が二時間、鉄道が連絡しているというのはこの地方ではその日のうちに着けるということであることは後で判った。

この待ち時間に駅前の食堂で食事をして、念のため道順を訪ねたのが失敗、恩師の深い思いやりに反し、一日早く大学に着いてしまった。綾里の旅館で旅の疲れを癒し、明るる日

身を清めて大学に乗り込む予定だったのである。綾里に旅館があるかどうかは今も知らない。学生時代は六畳の木造アパートに住んでいたが、三陸で与えられた鉄筋コンクリートの変形2DKは靴一つの身には広すぎ、もらってきた大量の新聞紙を部屋中に散らかしてやっと落ち着いたのを覚えている。

あれから十四年、今では東京に出かけても culture shock を受けなくなつた。そういえば本学部の出身者は世界中どこに放り出されても何とか仕事をこなしてくるという評判を聞く。卒業生諸君！三陸の生活は人間



を逞しくするぞ。時にはここへ戻ってきて自らを鍛え直すほうがよろう。三陸は昔と変わっていない。

LME同窓会について

水産利用学講座助手 高橋明義 (5F)

分子内分泌学研究室は水産利用学講座の中の川内研究室の名称です。『LME』はその英名の略称であり、昭和五十四年から使われています。一期生から四期生の諸氏には蛋白研として馴染みがあると思います。LMEの同窓生は毎年四月、春の水産学会後の土曜日の夜に川内浩司先生を囲んで同窓会を開いています。この時

期に同窓会を東京で開いていることにはいくつかの理由があります。中でも同窓生の多くが東京近辺に在住していること、地方に在住している同窓生にも週末を利用して出来るだけ多く集まって頂くこと、そして四月の水産学会には川内先生が確実に上京されるため、この時期を同窓会の季節として同窓生に印象づけて会



を恒例化するのに適当だということ
をあげることができます。また年度
始めであることから皆、新たな気持
ちで再会を喜び合えることにも意味
があります。

●川内先生とその門下生の懇談は、
先生が出張などで上京した折りなど
に度々開かれていました。数年前、
川内先生が農芸化学会奨励賞を授賞
されたことを機会としてそのような
不定期の会合が一期生の提唱により
組織だった会になりました。その幹
事は順に後輩が引き継いでいます。
今年の同窓会は第五回目であり幹事
役は五期生が努めました。

LME同窓会の事務局は筆者が水
産学部勤務していることから三陸
に置いてあります。同窓会の開催は
幹事と事務局の協力により行われま
す。最初の準備は一月頃春の水産学
会の日程を参考にして、川内先生の
予定を伺い期日を設定することから
始まります。次いで東京在住の幹事
に日程を連絡し会場を探して頂きま
す。これが諸事に渡って多忙な幹事
に最もご苦労を掛けるところであり、
また最も幹事の個性が発揮されるこ
ろでも有ります。二月中に全国の
同窓生に同窓会の期日、場所、時間
会費などを参加確認の返信用葉書と

共に配布します。三月中旬には全て
準備が整い、会場に川内先生、そし
て同窓生を迎えるばかりとなります。
この間、幹事は川内先生に贈呈する
記念品の選定に奔走します。

今年の同窓会は東京プリンスホテ
ルで開きました。夕方六時開会の予
定に、各地の同窓生、水産学会を終
えた大学院生が参集し川内先生を迎
えました。今年は米国ワシントン大
学から川内先生の基に留学してきた
ペニー・スワンソン博士とその夫君
のタイム・レインさんも加わりまし
た。毎年のことながら乾杯の後懇談
が始まります。全員が交流できるよ
うに会の形式は立食パーティーです。
多くの同窓生にとっては年に一度だ
けの川内先生と逢うことの出来るこ
の機会に近況報告が行われ、そして
三陸での思い出話が弾みます。また
川内先生からは研究の発展具合、あ
るいは三陸の最近の様子などが紹介
されます。頃合を見て自己紹介が行
われます。今年は米国人が参加した
こともありジャングリッシュ(ジャ
パニーズとイングリッシュの合成語、
川内先生が創案した言葉で、下手で
も良いからとにかく話そうと言う極
めつきのブロークイングリッシュ
の意)も使われました。芸達者な方

も多いことから三陸でのコンパであ
れば隠し芸の一つも出るのかも知れ
ませんが、宵の口ということもある
のでしよう、和やかに懇談が続きま
す。

会の中程に同窓生一同から川内先
生に記念品が贈呈されます。ちなみ
に第一回から第三回までの記念品は
版画などの芸術品でしたが、第四回
そして今回は文房具などの実用品で
した。どんな宴会でもあることです
が、会が佳境に入った当たりで同窓
会終了の時刻がやってきます。ここ
で、川内先生そして同窓生諸子相互
に今後の一層の活躍が祈念され、同
窓会が次ぎに引き継がれます。最後
にレストランの給仕さんに記念写真
を取って頂いてお開きとなります。
もちろんこれで終るわけではなく、
幹事が予め準備した二次会、そして
小グループの三次会へと向かいます。
これまでLME同窓会の概略を記
してきましたが、この様に恒例化さ
れ、また必ず今後も続いて行くであ
りましょうこの会を支えるものに川
内先生の優しい人柄があります。北
里大学水産学部の教員の中で誰に一
番迫力があるかと問われれば川内先
生の名を上げる人も多いと思います。
同窓会の中でも川内先生の厳しい指

導が話題の中心ですが、時が立つに
連れてそれが先生の科学に対する真
剣さであり、そして親身な指導の現
れであると理解出来るようになった
と言った話をよく先輩同窓生から聞
きます。多忙な同窓生の中には土曜
日の昼の仕事を終えた後すぐに列車
で会場に駆けつけ一次会の後すぐま
た夜行列車で故郷へ帰って仕事に取
り掛かると言う方もいます。このよ
うなところに同窓会の真髓を感じま
す。



職場紹介

「銀 鮭 養 殖」

本間 正 弘 (7F)

私は、新潟県佐渡ヶ島で銀鮭養殖を行っています。皆さんもマスコミ等で御存知かと思いますが簡単に御紹介します。

銀鮭養殖は昭和四十八年頃、日魯漁業株式会社が開発し、当初宮城県志津川町で養殖されました。その後、他の系列会社も含めて、同様の銀鮭養殖が雄勝町、女川町など宮城県内各地、岩手県、福井県、香川県、そして新潟県佐渡ヶ島など、全国各地で盛んに行なわれてきています。

(卵の導入)

大手水産会社日魯漁業(株)が発眼卵を毎年一月にアメリカから輸入し、フ化、種苗生産者に委託し生産をしています。この輸入卵は現在、天然親魚から採取されたものです。ところで、銀鮭養殖生産量は昨年が約七千トン、今年が約一万四千トンと倍増しています。将来は供給不足も十分考えられ、海面養殖で成長した銀鮭から卵を採取できる様に研究中だそうです。

(種苗生産)

種苗生産は、一年間を通して豊富な水量が見込まれている所で行なわれています。例えば栃木県、静岡県、新潟県内各地です。それらの種苗生産地で一〇〇グラムから二五〇グラムの稚魚になるまで育てられます。

(海水馴致)

十月頃まで養殖された銀鮭の稚魚は、十一月に新潟県佐渡ヶ島ヘトラックで活魚輸送によって運ばれてきます。岸壁近くの馴致槽にて三日から五日間かけて海水馴致を行ないます。

(海面養殖)

海水馴致後、海岸から約一キロメートル離れた沖合に生簀があり、そこへ船で運びます。生簀の中の縦十メートル、横十メートル、深さ十メートルの生簀網に稚魚を移します。その中で翌年五月まで海面養殖します。餌は、地元の定置網で獲れた、マサバ、カワハギ等を使います。それらを大型造粒機でモイスベレットにして給餌します。給餌は冬期間一日一回ですが海水の水温が昇温す

る四月頃から一日二回になります。

(出荷)

出荷は五月から六月にかけて行なわれます。給餌によって成長してきた銀鮭を規格品別に選別計量し、荷造り、包装(発泡スチロールの水詰め)を行なって出荷します。十一月に種苗生産地から活魚輸送されてきた銀鮭の稚魚は、出荷時期には平均二キログラムに成長します。水揚げされた銀鮭は、市場にある日魯漁業(株)の系列会社を通じて仲買人から末端の小売店へと運ばれていきます。出荷先は、地元新潟県を始め、関西、銀鮭最大の消費地北海道他、全国各地です。

新潟県佐渡ヶ島の養殖銀鮭は、他の地方で養殖されたものより色、味、肉質等の点で高い評価を頂いています。その理由の一つとして、佐渡ヶ島という環境(特に冬において)が銀鮭にとって、荒波の影響を受ける事によって肉質を良くしていると思われれます。

現在銀鮭養殖の他、マスノスケ(キングサーモン)も一緒に養殖しています。色々な点で、銀鮭よりマスノスケの方が困難です。また私の所で行なわれている。銀鮭、マスノスケ養殖生産量が設備その他の点で限定されているため、将来は規模を大き

くしていきたいと思っています。

近年の食生活の洋風化に伴い、レストランでも必ずと言って良い程、サーモンステーキがメニューに載っています。このように鮭は、種々の料理法と共に深く定着しており、比較的高級魚の部類に入る一方、大衆魚として洋の東西を問わず、人々に親しまれています。

なお、マスコミで報道された、「ハマチは毒魚である。」の様な事は、養殖銀鮭には、全くありません。というのも、その原因とされている生簀網にTBTOは使用していません。また、養殖銀鮭に奇形があるとするれば、それは発眼卵の選別の際、遺伝的なものが十分選別されない内に他の健康的な発眼卵と共に輸入され養殖されたためであります。新潟県佐渡ヶ島の養殖銀鮭は、出荷の際、保健所で検査を受け健康な魚として、発泡スチロールの上蓋に「生食用」のレッテルを貼ってあります。

最後に、三水会懇親会時に長屋先輩を始め、伴先輩、秋山先輩、桶田先輩、田村先輩他諸先輩には大変御世話になりました。またこの場を借りて、福島県水産種苗研究所研究員、鈴木先輩、(株)大永、調先輩には、いろいろと御世話を頂きありがとうございました。

第十四回水産学部体育祭

第十四回北里大学水産学部体育祭が五月二十三日、二十四日の二日間にわたり催されました。本年の体育祭は発達した低気圧が北日本を通過したために、両日ともに雨にみまわれてしまい、競技は体育館内での種目に限られてしまいました。北里大学の学生、職員の他に三陸町の住民にも参加していただき学生と町の住民との親睦を深めようと計画をたて三陸町のママさんバレーの団体に参加をお願いし、快く承諾をいただきました。

一日目は伝統の駅伝が雨のため中止となり、ドッチボールが体育館で行われ館内に息弾む学生達の声が「雨よ止めよ」とばかりに響きわたり、軽音コンサートで締括りました。二日目も心待ちにしていたソフトボールが雨で中止となり、変更されたバスケットボールにソフトボールのために養ったエネルギーをぶつけていました。同時に、半面でバレーボールが行われました。最後に新企画として腕相撲、カモメの玉子早食い競争で盛りあがったところで、井田先生、大場先生に閉会の御言葉を賜わ

り、無事終了しました。

過去十四回の体育祭の中でも二日間ともに雨が降り、体育館で競技が行われたのは今回が初めてなのではないでしょうか。それにもかかわらず、気迫のこもった態度で競技に望む姿勢は三陸魂という言葉をまざまざと見せられた思いがしました。しかも各競技の優勝は部ではなく、有志団体で学生の連帯感の強さをあらためて確認しました。

最後に体育会本部、文化会、執行委員会、級友会の皆様のご協力並びに三水会のご援助に対し委員一同心から御礼を申し上げます。



関西地区懇親会を開催して

田代茂年(2A)

会員数も増え、大きな組織へと成長している三水会であります。その中で各地方における会員相互の親睦と三水会活動の拡充を目的として、昭和五十九年度より各地方における懇親会が開催されてきています。今回は、関東、東海地区に次いで会員数の多い関西地区で開催願いたいとの依頼があり、小生が世話役を引きうけ、去る二月二十二日(日)に、大阪梅田新阪急ホテル「白楽天」にて開催しました。

家族も含めて約三十人の方が参加され久しぶりの対面、初めてのあいさつが行われ、お互いに家族持ちとなり、良き父親母親への変身ぶりにニガ笑い、テレ笑いが続いて盛会でした。

関西地区は会員数も多く、今後は関東地区で例会となつている「すだて」等家族を含めた親睦会の開催を目ざしてゆきたいと思えます。会員の中には職場において重要なポストに位置する方も増えていますが、多忙な毎日から離れ、家族と共に楽し



めるような会を催したいと考えています。次回の開催は未定であります。開催の連絡がありましたら、ふるって参加して下さいますようお願い申し上げます。

「Let's Go ずだり」の巻

中村 栄(9A)

六十二年度三水会関東地区の親睦会は、一昨年大好評を博しました。立て網を八月九日(日曜)に千葉県は金田海岸で行ないました。当日は海水浴シーズンと重なって渋滞を考へ東京からは三時間を予定し、朝九時の出船に向けて京葉道路を走りました。途中車窓から見える工業地帯の煙突の煙が真横に走る強風の日、昨年の曇天に続き、天候には恵まれない三水会です。

金田海岸に着くと潮のひいた海の沖合は波間に遊ぶ鷗が真白でした。竇立て網までは数百メートル水の中を歩かなくてはならず、子供は黄色い声をあげて大きわぎです。網の入口で貪弱なタマ網をもらい中に入ると、いるわいるわ大漁です。鱈や真鯰の高級魚を始め、極小の黒鯛、蝶、天麩羅種の鱈やメ鯰も沢山網に入っていました。膝下まで有る水の中を泳ぐ魚をすくうには、あまりにも私のタマ網が貪弱なため、元気な魚はすくうことが出来ず、子供がすくった魚を網からはずしてあげていると

次々にすくった魚はタルに三杯分にもなり、いよいよ楽しい昼ごはんとなりました。

すっかり潮のひいた海岸には、当日獲れた鱈や大きな蝶の刺身や煮魚などがならべられた舟が用意されており、相変らずの強風の中、百余名の三水会員は四せきの舟に分かれ、にぎやかな昼食となりました。

時間がたつにつれ、お酒も進み、正午には御飯もすっかり食べ終り、記念撮影もとどこおりなく終ったころには会員やジュニアの顔が、日焼けでちよっぴり赤くなり健康的でありました。潮が満ちて船が岸へもどれる様になるまでには、約二時間も待たなくてはならず、帰りの京葉道路の渋滞の事を考えると、少しでも早くこの場を去りたくなり、岸まで歩いて帰りました。

昨年の地引き網に比べ食事がもう一歩だったけれども、大漁で潮干狩も出来て楽しかった。

最後に皆さん、今日獲れた魚、いくつ読めましたか。



「昭和六十二年度三水会総会開催」

去る五月二十四日(日)午前十一時より、白金校舎北里本館二階大会議室において、昭和六十二年度本会通常総会が開催され、本年度の事業計

画、予算等が審議、決定されました。総会は、代議員本人二五人、委任状出席十四の計三九人の出席のもと開催され、六十一年度事業報告、

決算についての報告を受け、これを承認した後、六十二年度事業計画、予算案について協議を行い、会員名簿の配布、会報の発行等を内容とする原案どおりこれを承認しました。

総会終了後、午後一時より同会場において講演会を開催し、水産学部児玉教授より、三陸の現況、研究内容等についての講演をいただき、スライドをまじえての講演に参加者は懐かしくまた熱心に聞き入りました。講演会終了後、懇親会が催され、児玉先生を中心に懐かしい話が交され、楽しい一時が過ぎました。

総会において承認された本年度の事業計画、予算は次のとおりです。

昭和六十一年度三水会事業報告

1、会報の発行

同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を六十一年九月と六十二年三月の二回発行した。

2、「水産学部だより」の配布

本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布した。

3、会員名簿の配布

全学同窓会の名簿システムの開発が遅れたため、本年度の配布は見送った。

4、会員の現況の把握

全学同窓会による調査が行われ、ため、実施を見合せた。

5、同期会等の助成

申請のあった同期会、クラブOB会等卒業生の集会の費用の一部を助成した。

6、講演会の開催

六十一年五月に神谷教授に協力願ひ、学術的な発表、大学の現況等についての講演会を白金校舎にて開催した。

7、親睦会の開催

会員を対象とした親睦会を白金校舎、千葉県および大阪府にて開催した。また、水産学部学生との懇談会を東京において開催し意見交換を行った。

8、学友会助成

大学祭、体育祭費用の一部を助成した。

9、就職ガイダンスの開催

各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸校舎にて行なった。

10、漁船海難遺児育英会寄付

漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行なった。

昭和61年度三水会収支決算

支出の部			収入の部		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
1. 事業費	3,220,000	2,748,641	1. 1-7期生終身会費	100,000	0
(1)会報発行費	950,000	887,170	2. 部会助成金	4,320,000	4,320,000
(2)学部だより配布費	300,000	392,800	3. 預金利息	70,000	49,836
(3)会員名簿配布費	400,000	0	4. 前年度繰越金	780,697	780,697
(4)会員の現況把握費	50,000	0	5. 雑収入	150,000	88,000
(5)同期会等助成費	100,000	30,000			
(6)講演会費	70,000	48,800			
(7)親睦会費	850,000	973,911			
(8)学友会助成費	250,000	200,000			
(9)就職ガイダンス費	150,000	115,960			
(10)漁船海難遺児育英会寄付	100,000	100,000			
2. 運営費	1,650,000	1,372,617			
(1)印刷・通信費	450,000	327,685			
(2)会議費	200,000	329,392			
(3)総会費	200,000	149,480			
(4)事務局費	650,000	475,460			
(5)慶弔費	50,000	30,000			
(6)外渉費	100,000	60,600			
3. 予備費	550,697	1,117,275			
(1)予備費支出		222,230			
(2)次期繰越金		895,045			
合計	5,420,697	5,238,533	合計	5,420,697	5,238,533

昭和六十二年三水会事業計画

1、会報の発行

同窓生の動向、学部の現況、各種の情報等を内容とした会報を二回発行する。

2、「水産学部だより」の配布

本学水産学部の発行する「水産学部だより」を増刷し、全会員に配布する。

3、会員名簿の配布

本学会員名簿(職域別等索引付)

4、会員の現況の把握

を全会員に配布する。
全学同窓会と連携し、不明会員の調査等名簿情報の正確性の向上に努める。

5、同期会等の助成

同期会、クラブOB会等卒業生の集会の費用の一部を助成する。

6、講演会の開催

学術的な発表、大学の現況等について水産学部の先生方に講演し、たいだく会を白金校舎にて行なう。

昭和62年度三水会予算

支出の部		収入の部	
科目	予算額	科目	予算額
1. 事業費	3,300,000	1. 部会助成金	4,200,000
(1) 会報発行費	930,000	2. 前年度繰越金	895,045
(2) 学部だより配布費	300,000	3. 預金利息	70,000
(3) 会員名簿配布費	400,000	4. 雑収入	150,000
(4) 会員の現況把握費	0	5. 1~7期生終身会費	100,000
(5) 同期会等助成費	100,000		
(6) 講演会費	70,000		
(7) 親睦会費	1,000,000		
(8) 学友会助成費	250,000		
(9) 就職ガイダンス費	150,000		
(10) 漁船海難遺児育英会寄付	100,000		
2. 運営費	1,700,000		
(1) 印刷・通信費	450,000		
(2) 会議費	300,000		
(3) 総会費	200,000		
(4) 事務局費	600,000		
(5) 慶弔費	50,000		
(6) 外渉費	100,000		
3. 予備費	415,045		
合計	5,415,045	合計	5,415,045

7、親睦会の開催
 会員を対象とした親睦会を、総会終了後並びに関東地区及びその他地区において開催する。
 また、水産学部在學生との懇談会を開催し意見交換を行う。
 8、学友会助成
 クラブの活動費および大学祭、体育祭費用の一部を助成する。
 9、就職ガイダンスの開催
 各分野の卒業生による就職ガイダンスを水産学部生を対象に三陸

校舎にて行なう。
 10、漁船海難遺児育英会寄付
 漁船海難等により親を亡くした子弟に学費の援助を行っている漁船海難遺児育英会に対し寄付を行う。

計報
 去る六月二十四日、増殖学科三期卒業の平義氏(旧姓金子、水族病理学講座)が逝去されました。
 ここに慎んでご冥福をお祈りいたします。

「北陸地区親睦会」のご案内
 来たる十月十七日(土)夕、新潟市において、北陸地区在住の会員を対象とした親睦会を開催いたします。
 詳しくは、後日文書にてご連絡いたしますが、是非ご参加ください。

三 陸

生わかめの通信販売

なつかしい、三陸産のわかめを久しぶりに食べてみませんか。ワカメは、柔らかくて風味も満点、栄養価も高い健康食品です。
 是非お申込みいただき、三陸を思い出してください。

申込み方法:

同封の葉書または官製葉書に数量、送付先をご記入のうえ、下記までお申込みください。

〒151 渋谷区大山町17-17-503

三水会事務局(井川)

価格(2kg(1kg入×2箱)):

2,500円~2,800円(送料込、距離により異なります。東京は2,650円、沖縄、離島は送料実費となります。)

(10箱以上の申込みについては送料無料となり、1,000円/kgになります。)

支払方法:

商品とともに請求書が送られますので、現金書留、郵便為替、銀行振込のいずれかでお支払いください。

製造元:

遠藤物産 TEL 0192-44-3214

〒022-01 三陸町越喜来字東崎浜88

◆編集後記◆

大学は今年創立二十五周年を迎え、各種の催しが計画されている。去る七月にも記念事業として行われた北里先生のご生家の修復と記念館が完成し、オープンセレモニーが熊本にて開催されたところである。未っ子である水産学部も今年満十五歳である。こんなことを書きながら、この十五年を自分の人生に重ねていると時間はどんどん逆行し、明日起きたら崎浜の坂を大学に向っているのではないかとという錯覚さえしてしまう。こんな楽しい錯覚をしたい人は、三陸を訪れるか、そんな時間のない人は昔の仲間と会ってみたらよからう。